

南阿蘇の復興支援報告



写真：土砂崩れで流された桜公園跡。昨年の春は小さな桜が咲いていました

昨年(2017年)の11月9日から13日まで、日米ケア震災支援コミッティによる南阿蘇復興支援企画が開催されました。熊本地震の影響を受けた子供達とご家族向けの表現アーツセラピーを通した心理サポートと、学生ボランティアの災害心理教育サポートとの両方を同時に行うのは初めての試みでしたが、無事終了し参加者全員にとってそれぞれの学びのある有意義な時間となりました。ワークショップの様子と私たちが学んだことを報告させていただきます。

日程	プログラム内容	参加者数
11月9日 12:30~14:00	学生ボランティアが南阿蘇に到着後、オリエンテーション	18名
11月10日 10:00~16:00	学生ボランティアの復興支援フィールドワーク出発前トレーニングサポート 復興支援活動 活動後、学生たちの振り返りとセルフケアをサポート	18名
11月11日 10:00~16:00	南阿蘇・親子のためのセルフケア企画 及び学生ボランティアの実践トレーニング	11名 12名
11月13日 10:00~14:00	学生ボランティア復興支援フィールドワークサポート	14名



写真：世界農業遺産の景観を守りながら、農業も人の生活も心も復興させることの大切さと難しさを学ぶ学生達

[報告]

◆ 11月9日 12:30~14:00 学生ボランティアのトレーニングサポート

講師：日米ケア 夏井美果（熊本地震被災者、南阿蘇企画コーディネーター）

場所：仮設店舗 Mika's Music and English（南阿蘇の「道の駅 あそ望の郷くぎの」の駐車場に建てられたプレハブ平屋建ての仮設商店街内）

学生ボランティアが南阿蘇へ到着後、オリエンテーションの一環として、日米ケアメンバーが被災者として講演しました。震災当時の被害の状況、仮設商店街がどのように始まり、運営されているのか、震災以前の写真を見せながらお話をしました。

◆ 11月10日 10:00~16:00 学生ボランティアのトレーニングサポート

講師：日米ケア 笠井綾, Ph. D., MFT(CA)

場所：南阿蘇ロハス助け合い（ボランティア団体）

学生たちが復興支援フィールドワークへ出発する前に、日米ケアメンバーが、被災者と話をするときのマナーや、ボランティア活動の際の振る舞いや注意点について、災害心理を交えながら講演を行いました。学生たちは全壊し移転した農場で作業を行いました。ビニールハウスの中は30度になり、暑い中頑張って作業。学生は、農家の方が震災後辛くて、もうやめようかと思っていたが、ボランティアと一緒に作業を行うことでだんだんやる気を取り戻したことなど、ご本人やボランティア団体の方などの話をつなぎ合わせて、現地ニーズと支援の全体像を体験を通して学びました。いつもは一人で作業をしているけれど、この日は「3週間の作業が進みました。」と喜んでおられました。個人事業は公的な復興支援を受けにくく、ボランティア団体に頼るしかない状態です。復興がほとんど進んでいない地域もある中、南阿蘇村のボランティア団体は現在一つとなっています。また、ここ数年九州各地では集中豪雨による災害も多いため、より緊急の支援を必要とするところにボランティアが集中することがあります。復興支援活動後、学生たちの振り返りとセルフケアをサポートしました。ボランティアと一緒に作業することが心理支援になるなど気づきがありました。「ボランティアの意味がわかった。」という声が多く聞かれました。



写真：全壊し移転した農場の作業を手伝う学生ボランティア

◆ 11月11日 10:00～16:00 親子のためのセルフケア企画、及び学生ボランティアの実践トレーニング

講師：日米ケア 笠井綾, Ph. D., MFT(CA)

日米ケア 夏井美果 (熊本地震被災者、南阿蘇企画コーディネーター)

会場：南阿蘇長陽保険センター (ホール、お庭およびロビースペース使用)

10月27日に学生ボランティアとリハーサルを行い、役割分担について話し合いました。11月10日に、学生ボランティアでタッピングタッチの演習を行いました。11月11日、長陽保健センターにて、ワークショップを実施しましたが、ウィルス感染のため、参加予定者全員がキャンセルしたため、タッピングタッチをする時間は、午後の準備に費やしました。午後は、予定通り、住民と学生のグループでタッチドローイングのセッションを行いました。学生は託児を提供し、保護者が自分のためにゆったり過ごす時間を確保することができました。参加者は子育ての中で感じていることを表現したり、シェアしたりしておられました。

学生は託児、ワークショップサポート、引き続き農家での作業の3つのグループに分かれて作業を行いました。その後夜のセッションで学生の振り返りをサポートしました。



写真：タッチドローイングという表現アートセラピーの手法を使ったワークショップの風景

◆ 11月13日 10:00～14:00 学生ボランティアのトレーニングサポート

講師：日米ケア 笠井綾, Ph. D., MFT(CA)

日米ケア 夏井美果 (熊本地震被災者、南阿蘇企画コーディネーター)

場所：仮設店舗 Mika's Music and English (南阿蘇の「道の駅 あそ望の郷くぎの」の駐車場に建てられたプレハブ平屋建ての仮設商店街内)

学生の南阿蘇研修最終日、仮設商店街を拠点に周辺のフィールドワークのサポートを行いました。商店街で働く人々にインタビューを行い、東海大学阿蘇キャンパスが移転したことによる人手不足の状況や、震災直後の様子のお話などを伺いました。